

平成 17 年 1 月 29 日にダイヤ改正を実施

名古屋鉄道は、空港線(常滑駅～中部国際空港駅間)が開業する来年 1 月 29 日(土)に、1. 空港アクセスの整備 2. 列車種別の細分化による停車駅の明確化 3. 列車の増発や終列車繰り下げなどによる利便性の向上 4. 輸送の効率化 を骨子とした全線(岐阜 600 ボルト線区除く)にわたるダイヤ改正を実施します。各項目の内容は以下の通り。

1. 空港アクセスの整備

- 1) 名鉄名古屋～中部国際空港間を 28 分で結ぶ「快速特急」を設定
- 2) 空港旅客や空港勤務者の需要に対応した始発・最終ダイヤの設定

2. 列車種別の細分化による停車駅の明確化

- 1) 特急を「快速特急」と「特急」に分類
- 2) 急行を「快速急行」と「急行」と「準急」に分類

3. 列車の増発や終列車繰り下げなどによる利便性の向上

- 1) 列車の増発
- 2) 最終列車運行時刻の繰り下げ
- 3) 乗り換え時間の短縮
- 4) 運転間隔の改善など

4. 輸送の効率化

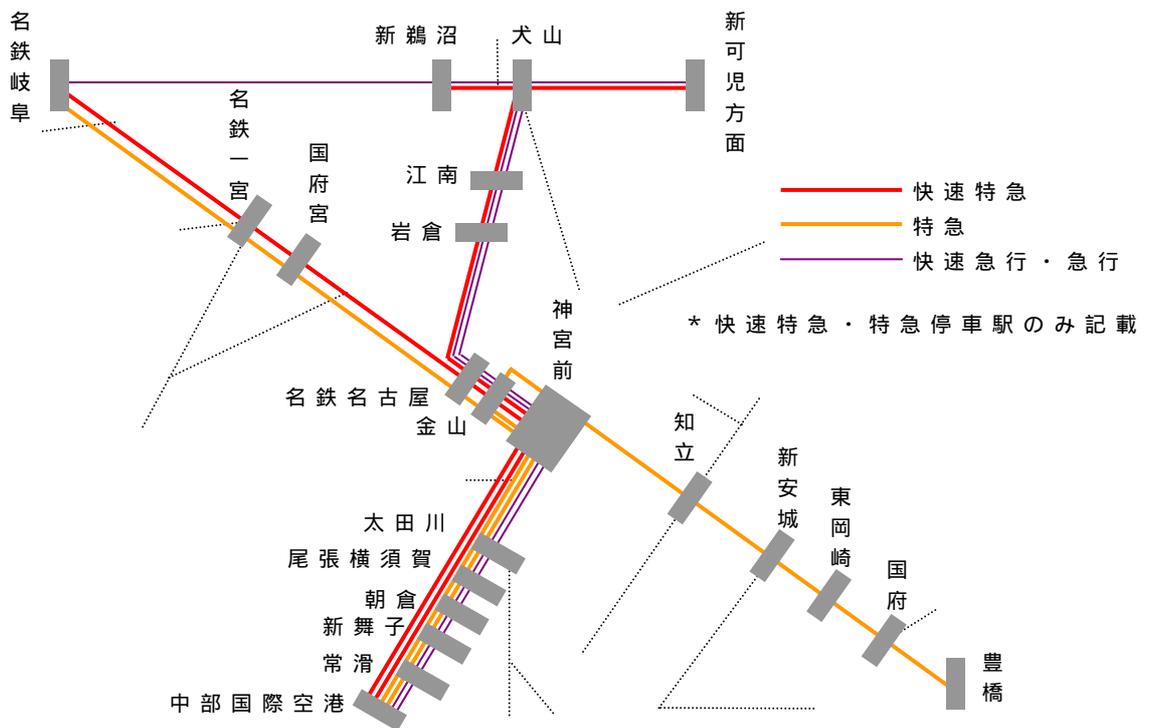
【駅名変更について】

空港線開業にともない、新名古屋、新一宮、新岐阜、ナゴヤ球場前、南成岩、各務原飛行場、徳重をそれぞれ名鉄名古屋、名鉄一宮、名鉄岐阜、山王、青山、各務原市役所前、徳重・名古屋芸大に改称します。

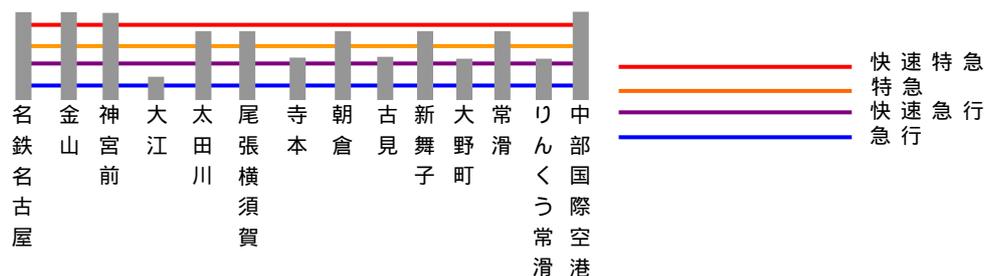
1 . 空 港 ア ク セ ス の 整 備

空港アクセス列車の1時間あたり(平日昼間時間帯)の運行本数は、名鉄岐阜および犬山方面を発着する全車特別車の快速特急2本、名鉄岐阜および豊橋を発着する一部特別車の特急2本、犬山方面を発着する急行2本の計6本。また、平日8時台に中部国際空港に到着する列車本数を7本とするほか、一部の全車特別車特急を通常の3両から6両に増強して運行するなど、朝間時間帯における輸送力増強を図ります。

【図 : 空港アクセス系統図】



【図 : 空港アクセス系統図】



1) 名鉄名古屋～中部国際空港間を28分で結ぶ「快速特急」を新設

快速特急

快速特急は空港アクセス専用にも新造した2000系を使用します。同車両は3両組成の全車特別車で、車内に大型手荷物置場を設置しているほか、22インチLCDディスプレイによる文字や画像情報を提供するなど、空港利用客の利便性と快適性の向上を図っています。また、当社初の車体傾斜装置を装備し曲線通過速度の向上を図り、名鉄名古屋～中部国際空港間を28分で結びます。名鉄名古屋～中部国際空港間の停車駅は金山と神宮前の2駅。中部国際空港への所要時間は犬山から53分、名鉄岐阜からは55分になります。



【新型特急 2000系】

特急は2000系車両と同等の車内設備を有する特別車2両に一般車4両を併結した新造車両2200系と、既存の一部特別車特急1200系を使用します。名鉄名古屋～中部国際空港間では、金山、神宮前、太田川、尾張横須賀、朝倉、新舞子、常滑の7駅に停車します。中部国際空港への所要時間は、名鉄名古屋から37分、名鉄岐阜から64分、豊橋からは86分になります。

特 急

特急は2000系車両と同等の車内設備を有する特別車2両に一般車4両を併結した新造車両2200系と、既存の一部特別車特急1200系を使用します。名鉄名古屋～中部国際空港間では、金山、神宮前、太田川、尾張横須賀、朝倉、新舞子、常滑の7駅に停車します。中部国際空港への所要時間は、名鉄名古屋から37分、名鉄岐阜から64分、豊橋からは86分になります。



【新型特急 2200系】



【特急 1200系】

急 行

急行は、通勤型車両を使用し、名鉄名古屋～中部国際空港間を46分で結び、特急停車駅に加え、大江、寺本、古見、大野町、りんくう常滑に停車します。

今回の空港アクセス整備に伴い、名鉄岐阜～神宮前間で快速特急1本が、金山～常滑間では快速特急2本・特急2本の計4本(これまで特急のあった一部時間帯では3本)が中部国際空港駅まで新設され、名鉄名古屋・金山方面から中部国際空港に向かう列車は、急行も含め1日当たり平日53本、休日56本が増便されることとなります(*中部国際空港から金山、名鉄名古屋方面には平日49本、休日56本)。

なお、今回のダイヤ改正に伴い、新鵜沼・新可児～河和・内海間を毎時2本運行していた特急の内、1本を名鉄名古屋駅発着に区間変更します。また、これまで豊橋～名鉄岐阜間を毎時4本運行してきた特急のうち1本を金山経由の空港直通特急に区間変更しますが、途中神宮前で中部国際空港発名鉄岐阜行き一部特別車特急に接続させ、名鉄名古屋、名鉄岐阜方面への利便性を確保します。

2) 空港旅客や空港勤務者の需要に対応した始発・最終ダイヤの設定

早朝空港利用者の利便性を確保するため、名鉄名古屋方面から中部国際空港までの早朝直通列車として、5時台に金山、栄生、岩倉から急行を、名鉄一宮、名鉄岐阜から特急を各1本運行します。

また深夜空港利用者の利便性を確保するため、中部国際空港21:50発快速特急名鉄名古屋行きのほか、22時台に急行2本、名鉄名古屋方面への最終列車として23:10発急行新鵜沼行きを運行します。

【早朝時間帯における各駅から空港への時刻表】

	名鉄岐阜	名鉄一宮	国府宮	名鉄名古屋	金山	西ノ口	常滑	中部国際空港着
普通						5:08	5:15	5:20
普通						5:35	5:42	5:48
急行					5:15		5:47	5:52
急行			栄生 5:20	5:23	5:27		5:59	6:04
特急		5:20	5:24	5:35	5:39		6:07	6:11
急行			岩倉 5:29	5:43	5:47		6:23	6:28
特急	5:41	5:51	5:55	6:07	6:11		6:40	6:43

【夜間時間帯における空港から各駅への時刻表】

	中部国際空港発	常滑発	金山着	名鉄名古屋着	岩倉着	犬山着
快特	21:50		22:14	22:18		
急行	22:10	22:15	22:51	22:58	23:13	23:28
急行	22:40	22:45	23:21	23:29	23:45	24:00
急行	23:10	23:15	23:48	23:53	24:07	24:23

2 . 列車種別の細分化による停車駅の明確化

列車種別ごとの停車駅を明確にするため、現行の列車種別（「特急」「急行」「準急（瀬戸線のみ）」「普通」）に「快速特急」と「快速急行」を加え6種類に細分化します。

これは、既存の列車種別では特急、急行の停車駅が時間帯により重複するなどして、旅客にとってわかりにくい停車駅となっていることから、列車種別を増やすことでそれぞれの停車駅を明確化し利便性向上を図るため実施するものです。これに伴い、「特別停車」の回数は現行 1,300 回/日から 204 回/日に減少します。

【列車種別の細分化 * 瀬戸線除く】

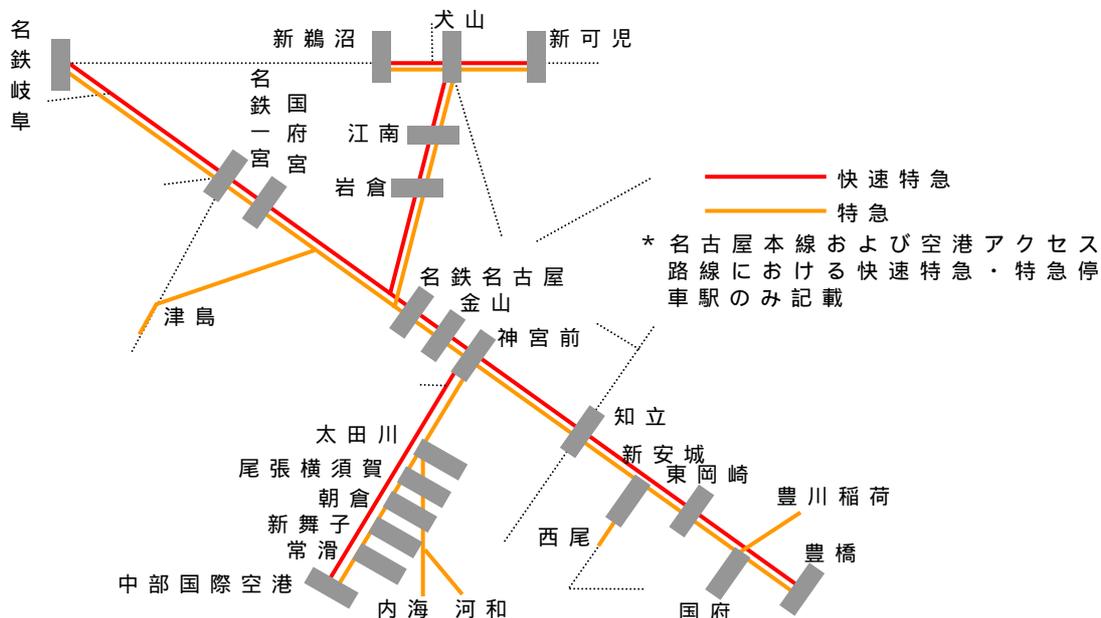
現 行	特 急		急 行			普 通
改 正 後	快速特急	特 急	快速急行	急 行	準 急	普 通

1) 特急を「快速特急」と「特急」に分類

「快速特急」は名古屋本線および空港アクセス路線系統として犬山方面および名鉄岐阜～中部国際空港間で運行します。名古屋本線では既存の特急基本停車駅に、また空港アクセス路線系統では、常滑・空港線内では中部国際空港まで直行運転となります。

「特急」は現行の特急基本停車駅に加え、これまでの特別停車駅であった国府、新安城、尾張横須賀、朝倉、新舞子を基本停車駅とします。なお、これまで一部時間帯で停車していた名古屋本線の伊奈、美合や河和線南加木屋、巽ヶ丘など7駅は従来通り「特別停車駅」とします。

【快速特急・特急の運行系統図】

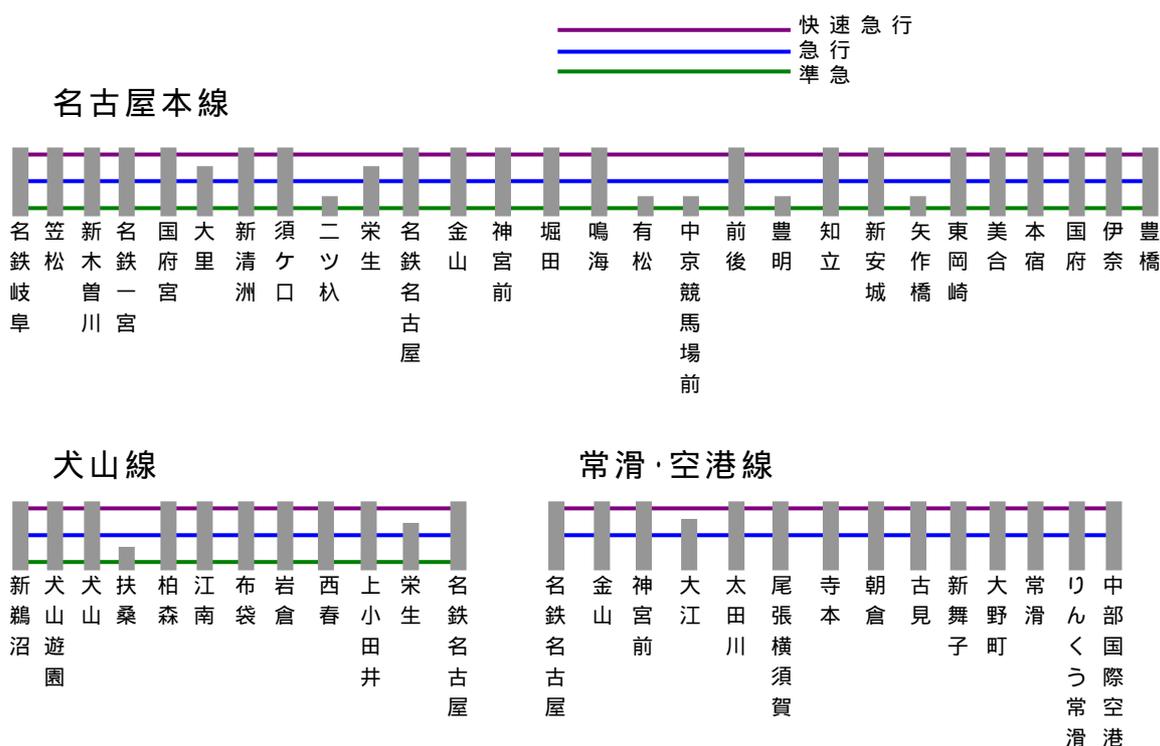


2) 急行を「快速急行」と「急行」と「準急」に分類

「快速急行」は現行の急行基本停車駅に、また「急行」は「快速急行」の基本停車駅に加え、名古屋本線の栄生と大里、常滑線の

大江に、「準急」は「急行」の基本停車駅に加え、名古屋本線の矢作橋と豊明、中京競馬場前、有松、二ツ杵と犬山線の扶桑にそれぞれ停車します。このほか、既に準急を運行している瀬戸線では、瀬戸市役所前と水野を急行停車駅に格上げします。

【路線別快速急行、急行、準急停車駅】*種別により停車駅が異なる路線のみ



特急と急行の停車駅新旧比較表は別紙資料 を参照

3 . 列車の増発や終列車繰り下げなどによる利便性の向上

一部区間において、フリークエンシーの向上を図るため、列車の増発や終列車運行時刻の繰り下げを実施するほか、本線・支線相互の乗り換え利便性の向上、運転間隔の均等化などを実施します。

1) 列車の増発

=河和線（平日）=

・太田川～知多半田間各駅のフリークエンシー向上を図るため、平日に同区間で普通を上下合わせて 21 本増発し、河和方面行きは 7 時台から 21 時台まで、名鉄名古屋方面行きは 9 時台から 17 時台まで 15 分間隔運転とします。

=名古屋本線（平日/土休日）=

・前後、中京競馬場前、有松、鳴海、堀田のフリークエンシー向上を図るため、16 時～21 時台に前後～神宮前間で準急列車 11 本を増発します。

=豊川線（平日/土休日）=

・豊川線各駅のフリークエンシー向上を図るため、同区間で上下合わせて普通を平日 34 本、土休日 26 本を増発し、平日は 8 時台から 21 時台まで、土休日は 7 時台から 18 時台まで、上下とも 15 分間隔運転とします。

=羽島線（平日/土休日）=

・新幹線利用者の利便性向上を図るため、羽島市役所前～新羽島間で、上下合わせて普通を平日は 9 時～16 時台に 28 本増発し、6 時台～22 時台まで上下とも 15 分間隔運転とします。また休日は 9 時～18 時台に 38 本増発し、6 時台～18 時台まで上下とも 15 分間隔運転とします。

=三河線（平日/土休日）=

・22 時台に普通を 2 本増発し、ほぼ終日上下とも 15 分間隔運転とします。

=津島線（平日/土休日）=

・線内各駅のフリークエンシーと名鉄名古屋方面への速達性向上を図るため、同線区内で平日に急行 8 本、普通 8 本を、また休日に急行 12 本、普通 11 本を増発します。

2) 最終列車運行時刻の繰り下げ

=河和線（平日/土休日）=

・知多半田方面への利便性向上を図るため、急行太田川行き最終列車の着駅を知多半田まで区間延長します。これにより、知多半田までの最終列車は現行の新名古屋 23:40 発特急知多半田行きに比べ 14 分繰り下げとなります。

=名古屋本線（平日/土休日）=

- ・最終新幹線との接続を図るため、豊橋 23:31 発急行鳴海行きを新設し、同駅最終列車発車時刻を 21 分繰り下げます。
- ・名鉄名古屋方面への利便性向上を図るため、豊橋 23:10(改正後 23:08 発) 発鳴海行き最終列車の着駅を名鉄名古屋まで区間延長します。

=津島線（平日/土休日）=

- ・津島方面への利便性向上を図るため、名鉄名古屋 24:00 発・急行・名鉄岐阜行き最終列車と接続する須ヶ口 24:07 発普通津島行きを増発し、津島方面への最終列車を 15 分繰り下げます。

3) 乗り換え時間の短縮

=名古屋本線（平日）=

- ・豊橋から国府～東岡崎間の普通停車駅への速達性向上を図るため、9 時以降国府に停車する名鉄名古屋方面への特急から普通への乗り換え時間を 22 分から 1 分に短縮します。
- ・豊橋、伊奈から本宿～東岡崎間の普通停車駅への速達性向上を図るため、9 時以降本宿に停車する名鉄名古屋方面への急行から普通への乗り換え時間を 21 分から 11 分に短縮します。

=西尾線（平日/土休日）=

- ・西尾～蒲郡間の各駅と名鉄名古屋方面間の速達性向上を図るため、西尾で同駅～蒲郡間を運行する普通と名鉄名古屋方面の特急、急行相互の乗り換え時間を最大 4 分短縮します。

=三河線（平日/土休日）=

- ・三河線知立～碧南間の利便性向上を図るため、知立で三河線（知立～碧南間）から名鉄名古屋方面特急への乗り換え時間を最大 14 分短縮します。

4) 運転間隔の改善など

=犬山線（平日/土休日）=

- ・名鉄名古屋方面行き急行の特急待避を解消し、犬山～名鉄名古屋間の急行の所要時間を 34 分から 29 分に短縮し、名鉄名古屋方面行き急行の運転間隔をほぼ 15 分に、また普通の運転間

隔も 15 分に均等化します。これにより、同路線内は上下とも急行、普通の運転間隔が 15 分となります。

=西尾・蒲郡線（平日/土休日）=

・蒲郡～西尾間の普通の運転間隔を現在の 36 分と 24 分から、ほぼ 30 分間隔に均等化します。

=瀬戸線（平日/土休日）=

・瀬戸市役所前と水野を急行停車駅に格上げし、昼間時間帯の尾張瀬戸発栄町行き普通、準急、急行の運転間隔を 10 分とします。

・21 時台～終列車まで、栄町発尾張瀬戸方面行き列車をすべて普通とし、21 時以降栄町発尾張瀬戸行き普通による運転間隔を 10～12 分とします。

4 . 輸 送 の 効 率 の 化

・空港アクセスの整備に伴い、名古屋本線、豊川線、犬山線、広見線の特急の一部と、常滑線太田川～金山間の急行の一部を廃止します。

・西尾線吉良吉田～尾西線佐屋間を直通運転する特急の運転区間のうち、乗車効率の低い昼間帯において名鉄名古屋～佐屋間および西尾～吉良吉田間を廃止し、運行区間を西尾～名鉄名古屋間とします。

・朝のラッシュ時間帯を除き、名古屋本線と三河線知立～碧南間の直通運転を廃止します。

【新ダイヤの HP 掲載について】

ダイヤ改正後の駅別時刻表や最適列車案内などは、12 月下旬頃から名鉄ホームページにてご案内する予定です。

<http://www.meitetsu.co.jp>

以上